

文語の苑

メールマガジン第三十一号(平成二十六年一月)

特許庁の頃

余通産省に入りて二度目の勤務は特許庁なりき。当時の特許庁は古き五階建ての煉瓦造りにて、正面玄関の石段には地盤沈下により亀裂生じたり。所属は長官官房総務課、配置は条約係長なり。課は三十名足らずの規模にして課長を除き大部屋にて執務せり。タイプライターの音のほかは静寂そのもの、交はさるる言葉も少なく、多くの者は黙々と書物と書類に目を通して日中を過ごす。

工業所有権の世界は十九世紀より国際化進み、数十カ国の加盟国を擁する万国パリ同盟条約なるものありてスイスはベルンに事務局を置く。公用語は仏語なり。然らば若造なりと雖も条約係長は重要なポストなるも、係員は他に居らず。ただ僅かに白髪を残すのみの老翻訳官着古したる紫色の背広着て柔和に微笑む。余彼と言葉を交はずはギリシヤ・ローマ法諺辞典の在りかを問ふ類ひの時のみなりき。

パリ条約は技術変化に対応するため数年に一度国際会議を開きて大改正を行ふ。それ自体条文数多き大条約にして、事務局の提案理由のほかそれに対する各国意見、会議に於ける議事内容等を記すのみにても膨大な資料となる。しかも過去数回の改正会議を経たればその資料を全て収蔵するには大いなる本箱二基を要す。何十巻にも及ぶその資料は仏語なれば読む者なく、その赤表紙は収納当時の儘なりき。ここに弁理士その他特許専門家を以て会員となす日本国際工業所有権保護協会なる団体ありてその事務局員余の仏語を解するを聞き及びて、余にその翻訳を懇請す。特許法を解し且つ仏語を能くする者ほほ皆無の時代なれば、翻訳料は他のアルバイトと比較を絶す。翻訳の量に制限なく多々益々弁すと云ふ。薄給の余に取りては望外の金蔓なりき。

余条約係長に就任、引継ぎたる書類資料等を詳らかに検むるに中にリスボン会議日本政府提出意見なる数十頁に及ぶ書類あり。リスボン会議は次回改正会議にして二年後に召集せらるる予定なりき。余会議に使用の目的ならば仏語に翻訳すべしとしてその仕事に掛かる。余当時若気の至りにて課長、課長補佐を無能なる官僚として軽蔑し居れば此仕事に関して全く彼等に報告せず。何人にも知らるることなく数カ月後に作業を了す。その後着任早々の上司一日余に向ひて言ふ様、吾条約関係の資料を閲しに日本語の資料論理的ならず往生せしに偶々その仏語を見るに至りて数多ありし疑問悉く氷解す、君もし仏語を解さば翻訳を読むを勧むと。余そが翻訳者余なることを告げず。上司の嫉妬を懼れてなり。彼を含め全ての関係者翻訳は条約局の所産と見做しけむ。リスボン会議の代表団結成せらるるに及び、長官、総務部長、総務課長、審議室長、法制局次長、外務省条約局より事務官二名にて、余人選に漏れたり。

当時余はスキー覚え立てにしてその魅力に惹かれ、冬はほぼ毎週金曜日の夜行にて上野より上越に赴き、日曜日の夕刻列車にて東京に戻るを慣ひとせり。スキーは総務課長の秘書に頼みて室の片隅に隠せり。当時器具は未だカンダハを用ゐ、板も自らパラフィンを塗るなり。余はシテムボーゲンを終へ、クリスチャニアの技に挑みつつあり。一泊の民宿は足を炬燵に入れ煎餅布団一枚のみ、食事は米飯の他は味噌汁と高菜漬の粗末なるものなれども満足その極なりき。

午後五時ともならば日中の単調より解放せられ、課員打揃ひ勇んで雀荘に赴く。葵荘なる麻雀屋近くにありて我等が馴染みの場所なり。愛想よき女将南方系の血混じれるが如き浅黒き女なり。慌しく食事をかき込み勤務時間より長く牌を打ちて終電にての帰宅なむ我等が日課なりし。三年に及ぶこの時間、これを有効に過ごさば何事か一芸に秀いづるを得たること疑ひなし。されど今改めて想ひ起さばこの時期余は瞑想の訓練を大いに積みたりといふべし。牌を打つときゲームに集中して相手方の誰なるかを知らず。ただ記憶するは牌の動きのみなり。これ三昧の境地に非ずして何と名づくべしや。

文語の苑

メールマガジン第三十一号

小倉百人一首 赤染衛門

やすらばで寝なましものを 小夜更けてかたぶくまでの月を見しかな

赤染衛門は、平安時代中期、藤原道長の時代に、綺羅星の如く現れた才女たちの一人です。日本で最初の歴史物語、「榮花物語」の前篇の作者に擬せられてゐ（い）ます。初め道長の妻に仕へ（え）、後にその関係で、道長の娘、一條天皇の中宮彰子に出仕しました。紫式部や和泉式部の同僚です。

この歌は、「古今集」の後三つ目の勅撰集である「後拾遺和歌集」に、「中關白（なかのかんぱく）少將に侍（はべ）りける時はらからなる人に物いひわたり侍りけり。たのめてござりけるつとめて、女にかはりてよめる」との詞書ぎとともに、掲載されて居ります。「中關白」とは、藤原道長の兄で、前の二十八に擧げた高階貴子の夫の藤原道隆です。少將とは近衛少將で、道隆のや（よ）うな名門の子弟にとつては、ごく若いころに就くポストですから、道隆が、まだ二十代の初めだった頃のことです。その頃赤染衛門の姉妹のところに、通つてゐ（い）たや（よ）うです。「たのめて」は、下二段活用の「當てにする」の意味の「頼む」の連用形です。「つとめて」は早朝、つまり道隆が、今夜は来るだら（ら）うと當てにしてゐ（い）たのに、來なかつた翌朝、赤染衛門が、姉妹の人に代つてこの歌を詠み、道隆のところへ送つたのでせ（しよ）う。歌の「やすらふ」は「休らふ」で、「ためらふ（ら）う」の意味。「ためらは（わ）ずに寝てしまへ（え）ばよかつたのに、夜が更けて、月の傾くまでを見てしまひ（い）ました」といふ（ら）う）怨み言の歌です。しかし怨み言が恨みがましくない。優にやさしい。赤染衛門といふ（ら）う）人の人柄なのでせ（しよ）う。

赤染衛門は、紫式部が日記の中で「ゆゑゆゑし」、即ち「輕はづ（ず）みではない」と褒めてゐ（い）ます。實際に立派な、考へ（え）の深い女性だったらしい。結婚相手は學者の大江匡衡で、そのため紫式部は、この人を匡衡衛門と呼びます。大江匡衡との夫婦仲は好く、赤染衛門の内助の功を示す逸話には、事缺きません。女性の友人は、紫式部だけではありません。清少納言とも和泉式部とも圓満に付合ひ（い）ました。夫とも女の友人とも、圓満に付合ふ（ら）う）ことのできる女性であり、歌人としても一流です。この人の著作と云は（わ）れる「榮花物語」の前篇は、「日本書紀」以來の日本の正史と同様に、一年毎の編年体で書かれて居ります。正史の不在を補ふ（ら）う）物語の歴史として、「榮花物語」の評価は、近年になればなるほど高い。赤染衛門が「榮花物語」前篇の作者であるとすれば、この人は、女房としても、妻や母としても、或いは歌人や著作作家としても、三拍子も四拍子も揃つた、傑れた女性だったと云へ（え）るのではないでせ（しよ）うか。

この人は、「忍ぶれど色にいでにけり」の歌の作者、平兼盛の子であるとされます。平兼盛の妻が、赤染衛門の父と再婚して生れた子ですが、その子が生れたとき、平兼盛は自分の子として、引取ら（ら）う）とします。所が赤染衛門の父は、自分は長く、平兼盛の妻と愛人関係になつてゐ（い）たと言ひ（い）張つて、譲ら（ら）う）としません。平兼盛はおっとりとした人だったと見えて、そのままになりました。しかし世間の人は、赤染衛門を平兼盛の子と見てゐ（い）たや（よ）うです。まこと子の父が本當は誰なのか、父親に知る術はないのでせ（しよ）うか。

加藤淳平

文語の苑

メールマガジン第三十一号

すめ神の天降りましける 愛國百人一首を讀む (二十六)

すめ神の天降りましける日向なる高千穂の嶽や先づ霞むらむ 楢取魚彦

「春の始めの歌」と題がありますから新春即ち新年の歌です。

新年を迎えてまだ冬の寒さが残る中、天孫邇邇藝命が天降りなさつて、我が日本の國の始りとなつた日向の高千穂峰では早くも春霞が漂ひ、春もこの地から始るのだらうなあ

「すめ神」の「すめ」は「皇」即ち神や天皇に關する讚美の接頭語、この場合は「天降り」とありますので邇邇藝命を示します。記・紀ではこの神が天照大御神の孫に當られることから皇孫と申上げます。「天降りましける」の「まし」は「天降る」の連用形に列なりその動作を、此處では「天降り」をする人に對する尊敬の補助動詞「ます」の連用形です。

結句の「らむ」は原因の推量を含むことが多く、この場合も何故全國に先驅けて、高千穂の嶽に春霞が立つのか、それは邇邇藝命が最初に降臨なされた場所であるからであらう、といふ推量が含まれてゐます。さうしてその推量に氣附いたことを「天降りましける」と謂はゆる「氣附きのけり」が示してゐます。

さて新年の所感としてこの歌の意味を考へて見ますと、春霞といふ日本人なら誰もが愛好する氣候現象が神代の昔天孫降臨から時間的に、さうして高千穂峰を起點とする地理的にと二つの方向性を保ちながら、この日本の國土に満遍なく訪れることへの嬉しい氣持と同時に我が國の國柄や文化も亦この二方向の連続性又は共通性のあることに思ひを致してゐるやうに思はれます。

この日本文化の特性に先づ言葉への考察から氣附いたのは難波の僧、契沖でありました。契沖はその著和字正濫鈔の序文で日本語の歴史を考察して言靈、即ち言葉の靈力を歴史的事象から實證すると共にいろは四十七文字を字母とする書き言葉の成立を跡づけて、音韻から獨立した歴史的假名遣の基礎を築きました。

詠者の楢取魚彦が賀茂眞淵に師事して古學を究め、古言梯を著して國語の連続性を重視する契沖の假名遣を補完したことを考へますと、この歌には日本の文化特に日本語の連続性對する深い感懐が籠められてゐることに氣附きます。即ち魚彦はこの連続性が、日本の四季が夫々の變化を見せても年々々で見ると一貫してゐるやうに、發音など話し言葉にはいろいろ變遷があつても、書き言葉は一貫してゐることと同じではないかと、改めて契沖の見解に對する敬意と贊成の念を強くしたと思はれるのです。

平成の御代も既に四半世紀を閲し、内外ともに難問が山積してゐる今日、國民一人一人の愛國的行動が求められてゐます。しかしその愛國的行動とは何か。この連載も三年目に入りました、その答を求めて今年も精進する所存に御座います。

市川浩

文語の苑

メールマガジン第三十一号

私譯文語聖書

約翰傳第二章

二日を経、ガリラヤのカナにて、婚禮の催さるるあり。イエズスの御母、彼處におはします。イエズスも門徒とともに招かれ、宴席に赴き給ふ。已而、酒盡きたり。御母、イエズスに告げて仰せありけるは、「御酒、悉皆無之候」と。

イエズス曰く、「母者、我が時未だ到らざるに、何をか強ひ給ひ候」。

然りと雖も、御母、下人を招きて仰せらるるは、「彼の者の下知有之候はば、如何様ならんとも異を立て候こと勿れ」。

茲に、ユダヤ人割禮の式を行ふ折に用ゐる甕六つあり。各々、水百リットルを入るるに足る。イエズス、下人に向ひて曰く。「水を汲み、以て甕を満し候へ」。

據りて、水を注ぎしかば、漸く甕に満ちて、將に溢れんとす。

イエズス、また曰く、「汲み候て、宴席に送るべし」。

就ち、宴席に齎しむ。宴の采配を揮ひたる長者、酒に變じたる水を嘗め、其の何處より來れるを知らず。(汲みたる下人の知れるのみ)。長者、新郎を召し寄せ、問ひて曰く、「人皆、先に良き酒を出し候て、客人呑み足り、酔ひ候に及びて、片秀の酒を飲ましむるに非ずや。然りしにかつして、而、今、宴將に果てんとするに及び候て、汝の饗ひ候酒の何ぞ此くは美き」。

是即ち、イエズスの顯し給ひし第一の奇蹟なり。ガリラヤはカナの町にて行ひ給ひける。是に於て、イエズスの榮光耀けるに依りて、門徒、悉く主を信じたり。

過ぐることに久しからずして、イエズス、御母と兄弟と門徒を伴ひ、カペナウムに到り、數日留まり給ふ。

高田友

文語の苑

メールマガジン第三十一号

巴里の星無しレストラン(一)

(注記) 飽くまでも二十年前(平成五年)の手記をもとにして、その文語化を試みたるものなれば、最新情報には非ざる點、留意せられたし。

JULES VERNE (ジュール・ヴェルヌ)

七區。エッフェル塔の上に存するレストランとして知る人ぞ知る。塔の南に専用エレベーターありて、眺望は流石に素晴し。外國人客多く、豫約は比較的困難なり。一ツ星落ちたれど、猶行く價値はあるらむ。店名、SF作家ジュール・ヴェルヌ(一八二八年、一九〇五没)に由來す。

AUCHATEAUBRIAND (オー・シャトーブリアン)

十區。かつて辻靜雄は、この店を巴里一番の伊太利料理店と評したり。店に入れば繪畫に圍まれたる雰圍氣、幸福感を覺ゆ。昔のレストラン案内によればシャガール、藤田嗣治の作品もあるべくも、今聞けば最早手許に無しとのこと。ラビオリ・ポモドーロは絶賛すべき仕上がり。食前酒附きの安き定食(一五〇フラン)は満足度高く、マダム・ピュルクリの應對も行き届けり。

FELLINEI (フェリーニ)

一區。ボンゴレ・スパゲッティにつきては巴里隨一と言ふ。客によりては巴里にて最も美味き食事の一つに擧ぐるほどなり。佛蘭西にはアルデンテにて供する店甚だ少なければ、貴重なる存在とこそ言ふべけれ。

MAXIMS (マキシム)

八區。一九五三年以來三ツ星として君臨せし處なりしかど、一九七八年に星落つべしとの噂立ち、以後ミシュランへの掲載をば拒否したることは夙に有名。言ふも愚かの名にし負ふマキシムなれば、一度は訪問したき店なるらむ。値段は高く、味よりも雰圍氣を樂しむべき店なり。音樂附きなれど、老ヴァイオリニストが一人のみにて演奏する姿はむしろ侘し。北京駐在経験者によるに、給仕の男性の魅力につきては、北京のマキシムの方が數段上との由。(中國の場合、數億人よりの選抜厳しきものあり。)

LEDDUC (ル・デュック)

十四區。ガイドのゴエミヨにての點數こそ高けれ、ミシュランには掲載せられ居らず。魚貝類の美味き店との定評あれど、内装はみすばらし。刺身に油掛けたるは、同じ「油」の醤油に及ばず。

AMBASSADED'AUVERGNE (アンバサード・ドールヴェルヌ)

三區。オーヴェルニュ地方の郷土料理店なり。雰圍氣もよく、一度は試す價値あり。キャベツとロックフォールチーズのスープは殊の外旨し。

文語の苑

メールマガジン第三十一号

PIERRE (ピエール)

二區。それなりの雰囲気あり。

LECOQ, HARDY (コック・アルディ)

巴里郊外のブーギヴァルにあり。入口はみすばらしけれど、店内に足を踏み入るればその豪華さに驚嘆す。味良く、オマール海老のサラダなど特に印象に残る。兎も角も知りおく価値十分の店なり。

CAZAUDEHORE (カゾドール)

巴里郊外のサンジェルマン・アンレイに所在。季節さへ良からば気分よきことこの上無し。大蒜サラダや仔羊の料理など記憶に残る。

PAVILLON PUEBLA (パヴィヨン・プエブラ)

岩山の如きビュットシヨームン公園に所在。南西佛蘭西と西班牙國境の料理にて確かなる味と覺ゆ。

CANARD, AVRIL (キャナルダヴリル)

二區。有望なるシェフの店にて、油漬け鯿、クレームブリュレなど印象に残る。

文語の苑

メーラマガジン第三十一号

外國船の日本人涉外役

去月、新嘉坡（シンガポール）より客船に乗り、マレイ半島諸国を巡りぬ。これ米國船なれども、乗客三千余の大半は新嘉坡人、他に中、印、欧米人と知る。日本人は我等夫婦二人のみ。港にて乗船手続きの時、一悶着あり。我等はこの船の三泊航海の後、次なる四泊航海に連続して乗る予定なれば、予め船会社本部に問合せ、三泊航海終了時には下船せず船内同じ室に留りて次航海に入るを得と承知せり。

乗船手続時、念の為そを確認するに、案に相違し各航海終了時には全員下船するが規則、一旦下船即ち新嘉坡に再入國し、次航海の客と共に列に並びて再乗船再出國手続きすべしとの御託宣なり。この場合、船室を出づるには荷造等煩瑣厄介あるに加へ、我等當地空港に入國したる時に申告せる滞在期間に矛盾生ずるの不安あり。

抗議したれば、現地人受付嬢、連続乗船を扱ふ経験無く、自らの言ひ分に自信無き風情なり。業を煮やし責任者呼ぶを求む。上席者現れ出て、我が得し米國本部見解を意に介さず、受付嬢と同じことを述べ。彼が口吻、頗る断定的且つ、彼も我も英語不如意にして、意志疏通著しく困難。打開の方途無きが如し。

我等には、早く船に乗り自室に入りて旅の緊張を緩めたき心地もこれありて、乗船後に解決せむことを期し、彼が判断を書になすを求め、その紙を持ちてひとまず乗船す。

幸ひなるかな、船内に日本人涉外役在り。この季節、この船に日本人客ある時に限りての取扱と知る。この人、有能熟練熱心親切活発健康を全身より発散せる女性、名を由貴と言ふ。

由貴嬢、港の受付嬢らが判断を一言の下に否定。かの上席者の書付を一顧だにせず、下船再乗船の手続無き俛にて連続乗船可能なるを明言す。猶も不安氣なる我等を見、その手續を我等に同行して完了せしめむと約束す。日本語にて自信溢るる説明を得、我等が安堵、言ふまでも無し。

三泊航海終了の日、彼、約束の室に定刻に現れ、我等に付添ひ船内にての手續、瑕疵無く完了す。

聞けば由貴嬢、船会社が社員にあらず。都度都度契約して船に乗ると言ふ。船内にありて、日本人客の涉外事項全般を担当、二十四時間待機して、深夜なりとも船内電話にて呼出さるるを苦にせずと。異國にての就業、當然なれども労働基準法の適用無く、航海終了まで休みの日無し。日本人乗客多き時の多忙疲労いかりかと思ひ遣る。しかのみならず雇用条件甚だしく過酷。仮に豫約変更ありて日本人客無き時すなはち涉外役不要なれば、即刻下船命令下され、港にてその夜の宿を探す羽目に陥るもある由。

英語、中国語を流暢に操り、氣配り細かにして、字美しく文章も良くす。國內にて職を求めなば相應の好条件を得らるべしと我は思へども、彼この仕事を好みて続け居ると朗らかに言ふ。

我、彼が職業觀、清々しと見るもなほ勿體なしの感を消去ること能はず。航海終了時に渡されたる船會社アンケート用紙に、彼を褒むる添書きして投函す。

文語の苑

メールマガジン第三十一号

さくらの女王

さくら祭り―春爛漫の折、毎年米国の首都ワシントンにおいて開催せらるる日本関係のお祭りなり。千九百六十三年、如何なる経緯か記憶なけれど、父より吾が出席すること決定せりと知らせらる。十五歳の吾は何も分からず、一張羅の振袖を着せられ、ホワイト・ハウスへと赴けり。半世紀も前の事なりて記憶かならねど、当時大統領夫人なりしジャクリン・ケネディ夫人主催のファッションショー、ホワイト・ハウスにおいて開催せられたり。ショー終りし時、立ち上がり拍手喝采あり。なれぬ振りそで着せられ、立ち上がる同時に吾足を振袖の中に入れ、振袖の付け根ビリりと裂けたり。已やんぬるな哉、時遅し。

その直後、当日のプログラムには記載なけれど、ケネディ大統領突如として現れ、その場ををりし吾らに握手求めたり。長身の大統領のいとハンサムなること、我が記憶に長く残りけり。気にかかるは、大統領夫人の夫へ送る冷たき視線。思春期の吾は夫婦円満ならずと見受けたり。その翌年、さくら祭りにおいて、行燈に火をともし「女王」に吾推選せられたれども、父そを辞退し、二歳年上の公使令嬢にその任を譲りたりと聞き及ぶ。最近では米国の若き女性たちの中から選出する美人コンテストなるもの開催され、女王決めらるる趣旨に変更せられたり。ポトマック川に面するタイダルベイソンにおいて行事あれば、女王の補佐役として吾、何十台の車列の一台に乗車したること記憶せり。当時日本の存在薄かりし時代にて、そは大いなる行事なり。ワシントンの桜は日本の桜より色濃く、枝ぶりも横に広がり見せ、豪華絢爛たり。桜見るたび、日本に生まれたるの喜びに慄おそふるは何のゆゑぞや。

赤谷慶子

文語の苑

メールマガジン第三十一号

ラダック紀行（其之五）

ラダックのゴンパでの倍音聲明は成功裡に終了、デリーに戻りぬ。旅程には二日ばかり豫備日あり。ラダックは高地にて天候定まらざる場合あり、豪雨に因る道路不通等、豫定を亂す事態發生に備へたるものなり。無事終了したる場合には、其の日をオプショナルツアーに當て、タージマハール見學の計畫有り。されど其は實施されず。今回の旅を担当せる旅行社は、印度ツアーを得意中の得意となし、ゴームク、ガンゴットリー等餘り有名ならざる場所や僻地はお手の物なり。されど所謂名所巡りの企畫得意とせず、タージマハール閉館日の確認を怠れり。

今回のツアー参加者、印度は幾度も経験せし人多し。されど、旅行社と同じく印度の聖地修業場に行くのみにて、名所見學の経験無し。其故タージマハール行を楽しみにせし参加者多かれども、致し方なし。

余もタージマハールツアー申込組なれど、其に替へてアーユルヴェーダマッサージを受く。日本にて行はれるアーユルヴェーダは殆ど女性専用なり。又施術料も高價なり。印度でも價安きには有らざれども男性の受くる事可なり。余は今回で二度目なり。前回迄は禪に着替へたり。今回は全く何も着けずタオルにて隠すのみなり。額に温かき油を垂らすシロダーラ實に氣持良く、満足せり。

マッサージを終へ夢心地の歸路、車外は豪雨となりぬ。並大抵の雨に非ず。其の内雨轉じて雹となりぬ。夏の印度にては時折雹の降る由後に伺へり。とは言へ六月の印度で雹を見るとは豫想だにせず。眞に愕きたり。

N師の何か事を成す折、雪の降る事多し。余の経験せし範囲にても、八月のゴームクの降雪、大井町のトークの日の降雪等有り。八月のゴームクの降雪は印度人のガイドも驚愕、「地上の積雪見し経験有れど、實際に空より雪の降るを見るは初めてなり」とぞ云へる。

仲紀久郎